

2022年6月20日

横浜ゴム、タクシー事業者向けタイヤソリューションサービスの実証実験を開始

横浜ゴム（株）とタイヤ販売子会社である（株）ヨコハマタイヤジャパンは京都タクシー（株）、興進タクシー（株）の協力を得て、タイヤソリューションサービスとして当社が開発したタイヤ空気圧の遠隔監視システム（Tire air Pressure Remote access System = TPRS）の実証実験を5月より開始しました。実証実験は京都タクシーおよび興進タクシーの車両に当社開発のタイヤ内面貼り付け型空気圧センサー付きタイヤおよび「TPRS」を導入し、京都府およびその近郊エリアで実施します。

今回の実証実験はCASE^{※1}、MaaS^{※2}など自動車業界の変革に対し、当社の「TPRS」およびタイヤ内面貼り付け型空気圧センサーの効果を検証するものです。「TPRS」はタイヤ内面貼り付け型空気圧センサーが検知したタイヤの空気圧や温度、車両の位置情報を車両管理者やタイヤサービススタッフがリモートで把握することができるシステムです。同システムはタイヤ空気圧の始業前点検の大幅な省力化および空気圧情報の記録化、タイヤの空気が徐々に抜けるスローパンクチャーの早期発見、タイヤメンテナンスの適切な実施、点検のバラツキ防止、リアルタイム異常検知による事故防止、適正空気圧維持による燃費向上などに貢献します。検知データはクラウドサーバーに送られ、車両管理者や当社の営業所にてタイヤ空気圧の見える化を実現し、燃費の悪化の原因となる低空気圧での走行を防ぐために空気圧が低下した場合やスローパンクチャーの恐れがある場合には、事務所内に設置した警報装置にて管理者に通知します。また、タイヤ内面貼り付け型空気圧センサーは従来のバルブ式 TPMS（Tire Pressure Monitoring System）と違って装着ホイールを選ばないため、アフターパーツとして多種多様な車両、ホイールに採用することができます。

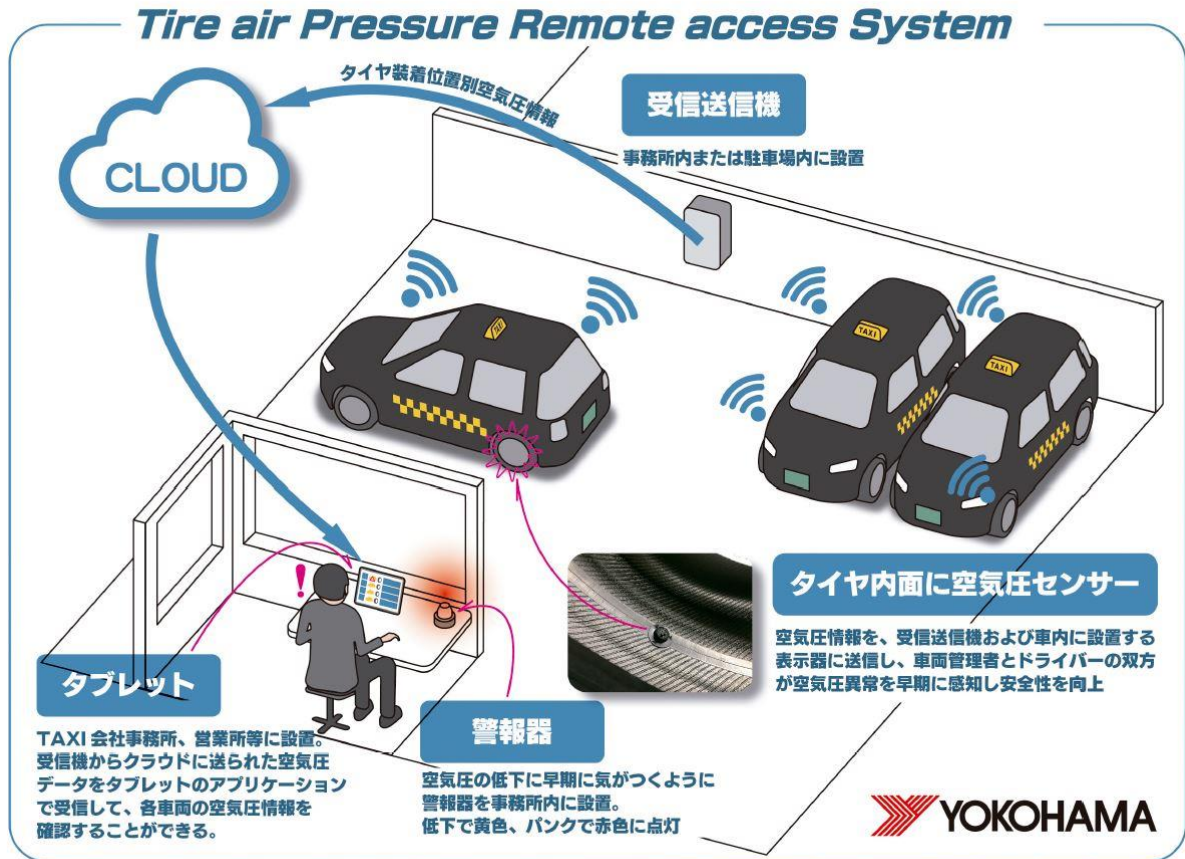
「TPRS」の実証実験はカンパニーカー向けやカーシェアリング事業者向けとして行ってきましたが、今回同じく厳しいタイヤ管理を求められるタクシー事業者向けの実証実験を行うことにより、安全性や経済性の向上に貢献するビジネスモデルの確立を目指します。

横浜ゴムは2021年度から2023年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023（YX2023）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーサン）におけるCASE、MaaSへの対応策として、センシング機能を搭載したSensorTire（IoTタイヤ）の開発と機動的なサービス力の強化による新たなタイヤソリューションサービスの展開を掲げています。2021年2月には乗用車用タイヤセンサーの中長期的な技術開発ビジョン「SensorTire Technology Vision」を発表し、IoTタイヤから得られた情報をドライバーや様々な事業者へ提供することで新たなモビリティ需要の変化に対応しつつ、安心・安全な運行に持続的に貢献することを目指しています。この実現に向けた活動の一環として、異業種との実証実験を行っています。

※1：Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（カーシェアリングとサービス/シェアリングのみを指す場合もある）、Electric（電動化）の頭文字をとった造語

※2：Mobility as a Serviceの頭文字。地域住民や旅行者の移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせる検索・予約・決済などを一括で行うサービス

■ 実証実験のイメージ図



■ 各社概要

京都タクシー株式会社

社長：川本 恵三

業種：一般乗用旅客自動車運送事業、一般乗合旅客自動車運送事業、運行管理・運行請負事業、
貨物自動車運送事業、代行運転業、労働者派遣業、不動産賃貸業ほか

<https://www.kyoto-taxi.com>

興進タクシー株式会社

代表取締役社長：濱田 典亨

業種：一般乗用旅客自動車運送事業

<https://www.55taxi-koshin.com/>

このリリースに関するお問い合わせ先
 横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田
 TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570